

◇第7回夏のパーソナリティ障害講演会「パーソナリティ障害と摂食障害は、一緒に、ゆっくり回復するもの」が開催されました。

●2015年7月26日(日) 横浜市金沢区にある「いきいきセンター金沢」にて、第7回夏のパーソナリティ障害講演会が開催されました。

今年は、のびの会嘱託医でパーソナリティ障害の家族会を担当してくださっている、国立病院機構下総医療センター医療情報部長の中根潤先生と、神奈川県立病院機構神奈川県立精神医療センターの安藤馨看護師をお招きしました。

第1部は『パーソナリティ障害と摂食障害は、一緒に、ゆっくり回復するもの』をテーマに、中根先生に基調講演をいただきました。

第2部は「当事者」、「家族」、「支援者」の3つのグループに分かれて分科会が行われました。各グループでは、中根先生、安藤看護師、そして当会専属心理士の武田が講師として加わり、直接アドバイスを受けたり、同じ立場同士で思いを分かち合えるミーティングをしたりと、大変ご好評をいただきました。

今回の講演もたくさんの方々にご来場いただき大変感謝いたします。お部屋の移動が必要だったため、椅子の移動等にたくさんの方にお手伝いをいただきました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。次回もさらに皆様にご満足頂ける内容を提供できますよう準備して参ります。ありがとうございました。

◇第17回摂食障害講演会「摂食障害と共に生きる 摂食障害とパーソナリティ障害は、一緒に、ゆっくり回復するもの～」が開催されました。

●2015年1月11日(日)、横浜市健康福祉総合センター会議室にて、恒例の摂食障害講演会を開催いたしました。

第1部は、当会の嘱託医でいらっしゃる鈴木メンタルクリニック院長の鈴木健二先生により、「摂食障害とパーソナリティ障害の並行的回復について」をテーマにご講演をいただきました。摂食障害の専門家でいらっしゃる先生からこの病気の特徴や回復の過程をお聞きして、改めてその難しさを教えられた内容ではありましたが、一方で本人や家族に希望をいただける貴重な時間となりました。摂食障害とパーソナリティ障害との併存について、また、一緒に回復していく過程をお聴きできたことは大きな収穫となりました。

第2部は3人の当事者による体験談発表。そして第3部はその当事者と鈴木先生を交えてのディスカッションをおこない、実際にどのように回復していったか、その時の行動や心理状態の変化について、深く掘り下げてお話いただきました。

今回の講演は予想を上回るたくさんの方々にご来場いただき大変感謝いたします。こちらの不行き届きでお席の数が十分でなく、多数の方にご不便をおかけしました。この場をお借りしてお詫び申し上げます。来年度はさらに皆様にご満足頂ける内容を提供できますよう準備して参ります。ありがとうございました。

◇第6回夏のパーソナリティ障害講演会「パーソナリティ障害はきっと何とかなると思う」が開催されました。

- 2014年7月21日(祝・月)横浜市健康福祉総合センターホールにて、第6回夏のパーソナリティ障害講演会『パーソナリティ障害はきっとなんとかなると思う』が開催されました。

昨年に引き続き今年も、パーソナリティ障害治療・研究の最先端におられる現帝京大学医学部附属病院教授、林直樹先生をお招きし、第1部では『様々な治療法から見た BPD の治り方』をテーマに基調講演をいただきました。

第2部は国立病院機構下総精神医療センターの中根潤先生にもご参加いただき、現役当事者・家族の体験談発表。その後『私の BPD との付き合い方の流儀』をテーマにと林先生を交えてのトークディスカッション・質疑応答が行われました。

医療関係者やご家族の方からは、生のBPDの声を聞いて大変と良かったとか、具体的な対応方法を聞いて良かったというご意見をたくさんいただきました。今回もたいへん貴重な講演会となりました。

◇第16回摂食障害講演会「摂食障害と共に生きる 2013～いま一度親子関係について考えてみる～」が開催されました。

- 2013年12月1日(日)六本木にある政策研究大学院大学会議室にて、第16回摂食障害講演会『摂食障害と共に生きる 2013～いま一度親子関係について考えてみる～』が開催されました。

第1部は前九段坂病院副院長で、現在池袋心療内科メディカルオーククリニック内日本摂食障害治療研究所の所長でいらっしゃる山岡昌之先生に、『摂食障害と家族関係～回復につながる関係とは～』をテーマに基調講演をしていただきました。山岡先生は、母子関係のやり直しの必要性から『再養育療法』をご提案された第一人者です。今回は、親が子どもの発している情緒的サインを適切に読み取ってそれに適切に反応するという『情緒応答性』の大切さについてお話しいただきました。

第2部は既に回復された当事者とご家族の体験談発表につづき、鈴木メンタルクリニック院長の鈴木健二先生にもご参加いただいて、トークディスカッション『いま一度親子関係について考えてみる』が行われました。親子がお互いに期待し過ぎないこと、よい意味で諦めるということに気付けたことが回復に繋がったというお話が伺えました。今回は親子関係がテーマの講演会だったので、摂食障害に関わらずどなたにもご興味いただけたたいへん貴重な講演会となりました。

◇第5回夏のパーソナリティ障害講演会「摂食障害・パーソナリティ障害を抱えて地域社会で生き抜くために」が開催されました。

- 2013年7月21日(日)公立大学法人横浜市立大学カメラホールにて、第5回夏のパーソナリティ障害講演会『摂食障害・パーソナリティ障害を抱えて地域社会で生き抜くために』が開催されました。

今回は2部構成で、第1部は現帝京大学医学部附属病院教授、林直樹先生に、『パーソナリティ障害を抱

えて社会で生きる』をテーマに基調講演をいただきました。

第2部は医療関係者と援助者を対象にして、国立病院機構下総精神医療センターの中根潤先生にもご参加いただき、トークディスカッション『パーソナリティ障害患者・家族をどう支援するか』が行われました。

ご参加頂いた皆様からは現場で抱える様々な疑問や質問が出されました。今回は医療関係者の方々にもたくさんご参加いただき、様々な立場から精神障害者が地域社会で生活することの現実的な問題やより良い支援体制についてお聞きすることができ、たいへん貴重な講演会となりました。

◇第15回摂食障害講演会「摂食障害と共に生きる 2012～回復の扉～」関東報告会が開催されました。

- 2013年3月10日(日)いきいきセンター金沢にて、第15回摂食障害講演会報告会「摂食障害と共に生きる 2013・春～回復の扉～」が開催されました。

今回は、9月に静岡で行われた講演会の報告会で、前半は鈴木メンタルクリニック医院長の鈴木健二先生による基調講演をビデオで拝見し、「まず食べること」こそが摂食障害からの回復には最も大切であることをお話いただきました。後半は静岡と同じメンバー2名による体験談発表で、回復へ向かう日々の生活や自分の心との向き合い方、自立を目指して社会復帰を始めた現在の心境をリアルな言葉で聞くことが出来ました。

終了後は、ミモザスタッフ(精神保健福祉士)と当事者(のびの会事務局員)による個別相談を行い、皆さんから様々なお話しを伺うことができました。

今回は親子で参加された方も多く、具体的な回復のプロセスを聞く良い機会になったとの感想をいただくことが出来ただけでなく、社会復帰を目指す方たちにも勇気をもらえる講演会となりました。

◇パーソナリティ障害勉強会特別企画「摂食障害とパーソナリティ障害の社会福祉サービスについて」が開催されました。

- 1月27日(日)ミモザにて、金沢区役所障害支援担当のケースワーカーでミモザ運営委員の田中健二氏をお迎えして、生活保護についてのミニ講演会を開催しました。世話役を含めた参加者19名は、生活保護申請と受給の厳しい現状について耳を傾け、活発な質疑応答が繰り広げられました。そこには将来を見据えながら現実にはいかに向き合っていけばよいか、という当事者を抱えたご家族ならではの真摯な姿が垣間見え、実に有意義な2時間となりました。

講師の田中氏もソフトな語りの中に、『権利を与えられるということは同時に義務も発生することである』という厳しくも当たり前の事実を繰り返し述べられ、「保護する」、「保護される」ということに慣れている私たちも気付かされることが多々ありました。今後も、外部から講師を招いて、社会保障制度についての講義を開催していく必要性を感じました。